

北広島に恩返ししたい



サスカトゥーン市派遣団の事前研修



東部地区子ども朝活の一つ、イングリッシュ・デイ・キャンプ



日本語教師

一條花甫里 さん

いちじょう・かおり
タイ在住。
北広島高校3年のとき、カナダ・サスカトゥーン市派遣団に参加。大学在学中に、イギリスやオーストラリアなどに留学し、現在はタイのインターナショナルスクールで日本語教師として活躍している。夏休みを利用して一時帰国し、サスカトゥーン市派遣団の事前研修や、東部地区子ども朝活のイングリッシュ・デイ・キャンプなどに講師として参加した。

初めての海外

一條さんが小学生のころ、いとこがサスカトゥーン市派遣団としてカナダを訪問した。お土産にももらったレターラックを眺め「私も大きくなったら派遣団に入ったらカナダ・サスカトゥーンに行きたい」と強く思った。

その夢がかなったのは、高校3年のとき。サスカトゥーン市は建物がかわいらしく、街並みなど全てがきれいに見えた。いろいろな所に連れて行ってもらい刺激を受けたが、英会話があまり得意ではなかった。ホストファミリーと上手にコミュニケーションが取れなくて悔が残った。「これから派遣される高校生には、そんな思いはしてほしくない。失敗しても大丈夫！身振り手振りで積極的に英語で話し掛けてほしいです」。

英語が話せると、可能性が広がる。派遣団に入ったり留学したり

することで、夢の選択肢が増えればいいと話してくれた。

これからの夢

子どもたちには生きた英語に触れてほしい。海外にも目を向けてほしいと願っている。

夏休みに、学習や運動などの体験を通して良い生活習慣を身に付けてもらう「東部地区子ども朝活」が行われた。その一環として、クイズや手遊びなどで英語に親しむイングリッシュ・デイ・キャンプが開かれ、一條さんが講師を務めた。最初はおとなしかった子どもたちが、どんどん積極的になった。これからもこのような機会をつくりたいと考えている。

「教師は自分の天職だと思っています。いろいろな国に行って、日本語教育のキャリアを積み上げたいです。でも、中学生のときの担任からは北海道の教員採用試験は39歳までだからねと言われます。

どうやら北海道に戻って来てほしいみたいです」と苦笑い。

「派遣団での経験があるから、今の自分があります。世界に目を向けるきっかけをつくってもらった北広島のために、今度は恩返ししたいです」

ふるさと北広島

一條さんは3歳から高校卒業まで北広島に住んでいた。

「小さいころから遊んでいた北広島公園と、北広島高校への通学路から見える景色が大好きです。北海道は自然が素晴らしいし、食べ物もおいしいと思います。道産子として誇れるものですよね」と、ほほ笑む。

どこにいても帰る場所は北広島だと感じている。海外に住んでいながらこそ北広島や北海道の良さが実感できる。

これからは日本語教師として、世界中で活躍してほしい。

